

「第39回真実杯サッカー大会を觀みこ

少年サッカー大会を觀みこ

1968年メキシコ、オリンピック

サッカー銅メダリスト

松本 育夫

昨年のワールドで行われたサッカーワールドカップ大会で日本代表の活躍は日本国内をサッカーによつて熱狂させる社会現象を起しました。勿論サッカーは世界で人気のスポーツです。選手一人一人の勝利を求めます。

レベルはその国々の人々の表現であり文化の表現です。4年に一度の大会は毎回地球上で一つの月のお祭りとなつていきます。フットボールの杯は自国の試合がある日は国民の休日となり国民がこの杯への応援する国もあります。この杯は天合で優勝経験のあるドイツ、スペインを撃破し決勝トーナメントに進出し日本中も熱狂させた事は当然でした。この杯は素晴らしい結果を出した選手には共通した要素がある事を認知していきます。現在の選手達はサッカー

を開始した年令から芝の上でサッカーを行う
 時間が多くなりました。私達の時代はサッカ
 ーのグラウンドはエでありボールは跳ねて自由
 にボールコントロール出来ずの上転ハば擦
 り傷を作りサッカーの面白さが伝わりません
 でした。真岡ローター杯争奪少年サッカー
 大会は美事な整備された10面の芝のグラウンド
 で試合が行われサッカーが大きく変化し進歩
 している事に気付くのであ。試合は逆手達が
 ボールコントロールの苦しさを芝の上を転が

すパスによつて行われたいさあ。私達の時に
 はボールが空中に在る時間が長いサッカーで
 した。そしてスライディングの準備も随所に
 見られワイロドカットの子供版をこの大会で
 見る事が出来その上サッカーを楽しんでいま
 姿に感動致します。この様に素晴らしいサッ
 カー大会を行なうもう一つの要素があります
 。39回大会が継続されて歴史を重ねられて来
 られた関係者の方々の努力がある事を忘れて
 はなりません。大会を運営する真岡ローター

1 クラブ、真岡市サッカー協会関係者の方
 が、選手達に良い環境でプレーを行わせて
 くれる成長して欲しいとの心からの願いが込め
 られていらっしゃる素晴らしい大会なのであ
 りたい。大会理念である「サッカーを通して身
 体を鍛え、フットボールを愛し、正しく生きま
 す」を達成する事を目的とする。これは37回
 の大会を継続して来た中に裏証されていま
 す。コロナ禍で今年は6月4日まで延期
 されたが、今年度は12月4日に大会が戻り
 真岡ロケット杯を開催します。

クラブ、真岡市サッカー協会の目指す理念は
 更に充実したものにしようと確信致しま
 す。サッカーを通じた社会貢献は全国に誇
 り得る組織であり、素晴らしい大会の一
 環として、毎年観戦している私にとっ
 て、継続して開催させたい。歴史を築
 かれた背景には大会に関係した
 関係者の「減私奉公」の精神がありま
 す。確立された組織のもと、リーダー
 が中心となって大会を成功させよう
 と一致協力して運営する。この様な
 組織運営は、

この大会に参加した選手の中かう日が代表中
 村憲剛、女子世界最優秀選手になった澤穂希
 を輩出した頃からと世界で活躍出来る選手育
 成に「夢」を持たせて来れる大会になるでし
 よう。次年度の大会が楽しみで鶴首致してお
 ります。